

# 「結核」について

## Q1：結核はどんな病気？

明治時代から昭和20年代までの永い間、「国民病」「亡国病」と恐れられた結核。

50年前までは、年間死者数も10数万人に及び、死亡原因の第1位でした。医療や生活水準の向上により、薬を飲めば完治できる時代になりましたが、過去の病気とっていたら大間違いです。

今でも1日に50人の新しい患者が発生し、5人が命を落としている日本の重大な感染症なのです。

1日で5人が亡くなる日本の重大な感染症です



## Q2：どうやって感染するの？

結核とは、結核菌によって主に肺に炎症が起こる病気です。結核菌がいる患者がせきをすると空气中に飛び散り、それを周りの人が直接吸い込むことによって感染します。これを「空気感染」といいます。

## Q3：どうやって結核を予防すればいいの？

結核は、注意を正しく知り行動していればそれほど怖がる必要はありません。

バランスのとれた食事、適度な運動、十分な睡眠、たばこを吸わないといった生活習慣が大切です。

2週間以上せきやたんが続くようでしたら、医療機関で受診しましょう。早期発見は本人の重症化を防ぐためだけでなく、大切な家族や職場等への感染の拡大を防ぐためにも重要です。

抵抗力の弱い赤ちゃんは、結核に感染すると重症になりやすく、生命を危うくすることすらあります。

予防するためには、BCG接種が有効です。市町からの案内に従って、遅くとも1歳までに接種を受けてください

## Q4：もし結核になってしまったら？

結核と診断されても、6カ月間毎日きちんと薬を飲めば治ります。しかし症状が消えたからといって、治療の途中で服薬を止めてしまえば治りません。それどころか、菌は抵抗力をつけ、薬が全く効かない多剤耐性菌になることもあります。治療を確実にするために、医療従事者が患者に薬を処方するだけでなく、患者が服薬するところを目の前で確認し、支援する方式が推進されています。

—公益財団法人 結核予防会作成「結核の常識2016」より抜粋—

<http://www.jatahq.org/siryokan/torikumi/pdf/2016.pdf>